

ギフチョウのマーキング調査2020

石井 教寿

1. はじめに

大阪府でギフチョウの観察を数年行ってきた。その中でほとんど採集出来なくなり、あまり採集者が入らなくなった地域でギフチョウのマーキング調査を行った。この地域のギフチョウは4月上旬から下旬にかけて見られる。食草はカンアオイだが、鹿の増加とともにかなり個体数が減少している。観察は2020年4月9日から4月23日まで6日間実施した。ギフチョウの行動範囲を解明するため、マーキング調査を行った。

2. ギフチョウについて

日本固有種で、本州のみに分布し北は秋田県から南は山口県まで見られる。成虫は年1回、3月下旬～6月上旬に出現するが、発生地の高標高や雪解けの時期により羽化時期は大きく異なる。幼虫の食草はウマノスズクサ科のカンアオイやウスバサイシなどである。



写真1 ギフチョウ

3. マーキング調査について

調査のために、生物の体の一部にマーカーなどで番号やアルファベットを記入することをマーキングという。本来、アサギマダラのマーキングは、アルファベットと数字を使って記入するが、今回の調査では写真2のように翅の薄い色の部分に数字のみを記入した。



写真2 マーキングをしたギフチョウ。左上から順に、3・4・6・7・8・9・14・18の個体を示している。

4. 観察結果

2020年 ギフチョウの観察 大阪府

4月9日			4月15日		
時間	番号		時間	番号	
13:28	1♂	マーキング	11:27	3♂	マーキング
13:38	2♂	マーキング	11:39	4♂	マーキング
			12:24	5♀	マーキング
			12:38	6♂	マーキング
			13:17	7♂	マーキング
			13:22	8♂	マーキング

観察個体数2

観察個体数6

4月16日			4月17日		
時間	番号		時間	番号	
11:18	9♂	マーキング	10:35	13♂	マーキング
11:38	6♂	再捕獲	10:39	14♂	マーキング
12:38	7♂	再捕獲	10:44	6♂	再捕獲
11:49	9♂	再捕獲	10:49	14♂	再捕獲
11:54	4♂	再捕獲	10:52	4♂	再捕獲
12:04	4♂	再捕獲	10:52	6♂	再捕獲
12:00	9♂	再捕獲	11:05	15♂	マーキング
12:12	10♀	マーキング	11:18	8♂	再捕獲
12:20	11♂	マーキング	11:24	16♂	マーキング
12:33	12♂	マーキング	11:24	15♂	再捕獲
12:34	9♂	再捕獲	11:31	6♂	再捕獲
12:42	7♂	再捕獲	11:40	6♂	再捕獲
13:09	9♂	再捕獲	11:53	17♂	マーキング
13:17	6♂	再捕獲	11:58	13♂	再捕獲
13:24	7♂	再捕獲	12:00	14♂	再捕獲
13:42	6♂	再捕獲	12:08	13♂	再捕獲
			12:50	6♂	再捕獲
			13:05	6♂	再捕獲
			13:09	4♂	再捕獲
			13:11	9♂	再捕獲
			13:15	4♂	再捕獲
			13:24	9♂	再捕獲
			13:26	4♂	再捕獲
			13:29	14♂	再捕獲
			13:30	14♂	再捕獲

観察個体数7

観察個体数8

4月21日			4月23日		
時間	番号		時間	番号	
11:59	18♀	マーキング	12:41	21♂	マーキング
12:24	9♂	再捕獲			
12:35	14♂	再捕獲			
12:36	6♂	再捕獲			
12:39	14♂	再捕獲			
12:42	19♂	マーキング			
12:47	11♂	再捕獲			
12:49	20♂	マーキング			

観察個体数8

観察個体数1

5. 調査結果

《チョウの寿命について》

ギフチョウのマーキング調査では、最長生存日数を確認された個体は4月15日にマーキングされた6番であ

った。この個体は4月16日・21日に観察され、最長6日間生きたことになる。昔、チョウは1週間しか生きないと言われていたことは、ギフチョウに起因していると考えられる。

《雌雄比について》

雄・雌の個体比は6:1になった。雌は4月15日・16日・21日に1個体ずつ見られ、どの個体も貞操板が無く、未交尾の個体であった。このことから、雌は最初に見られた時から1週間以上遅れて見られることが理解出来る。ミドリシジミチョウ（石切山）の2017年の結果での結果では雄・雌の個体比は5:1であり、似かよっている。

《観察された個体数について》

4月17日には10:35から13:30の間に25回捕獲されたが、見られた個体は8個体であった。この8個体が頂上付近に集まって何回も見られたことになる。一番多く再捕獲された個体は6番でこの日5回再捕獲されている。6番は4月16日・21日にも再捕獲されており、合計10回再捕獲されたことになる。この観察から、ギフチョウは1日の行動としてほとんど同じところを往復していることがわかる。いままで採集だけを行っていた時には、わからなかったことである。

6. 考察

ギフチョウ(雄)は1日同じ場所からあまり動かない。半径50m付近を動いている。今回の観察から1週間程度しか生きないと思われる。雌は雄が見られてから1



写真3 4月21日に再捕獲した個体6

週間遅れて出現する。雌は雄にくらべて極端に個体数が少ないことが理解できた。

7. 参考文献

「ミドリシジミチョウのマーキング調査」2021年
(兵庫県生物部会誌) 石井教寿